

T O B U



久しぶりのゼフィルス採集

富 沢 章

1997年7月5日に金沢市倉ヶ岳で下記のゼフィルス類を採集したので報告する。

ジョウザンミドリシジミ	5♂2♀	ウラクロシジミ	2♂2♀
アイノミドリシジミ	1♂	ウラキンシジミ	2♂1♀
ウラミスジシジミ	6♂	ミズイロオナガシジミ	1♂
ウラナミアカシジミ	4♂1♀	ウスイロオナガシジミ	4♂3♀
アカシジミ	1♂		

当日は曇で風のやや強い日であったが、採集地点である大池近くの駐車場の手前100mの車道には、ゼフィルス類の個体数が極めて多く、手を休める暇はなかった。ただし、雄は最盛期を過ぎていたため、破損している個体が多かった。上記9種の個体数の多少を大まかに示せば、ジョウザン≫ウスイロオナガ=ウラミスジ>ウラナミアカ>ウラクロ=ミズイロオナガ=ウラキン>アカ=アイノであった。

ウラナミアカシジミは、かつて小松の低山地に多産し、クヌギ林のゼフィルスのイメージが強い。それゆえミズナラの多い当地で多数発生していたことが奇妙に思われた。また、全体的に小型なものも印象的であった。

当日は金沢で所用があり、採集できたのは午前6時50分から8時30分の短い間であったが、私にとって久しぶりのゼフィルス採集が多発生と重なったようで、楽しいひとときを過ごせた。

《とみさわ あきら 〒923 小松市大川町3丁目71》

今年はウラナミアカシジミ多産か？

竹 谷 宏 二

医王山スポーツセンター向いのキゴ山斜面は、従来から低山性の各種ゼフィルスの好産地として知られている。しかし、ウラナミアカシジミの生息密度は低く、毎年写真撮影の為にこの場所を訪れているが、年に1頭会えば良い方で、通常は中々お目にかかれない。

ところが、今年は朝8時頃から10時半までの2時間半の間に4頭を確認した。このうち、2頭はミズナラの樹上から飛び立たせた個体で、他の2頭は下草に静止していた個体である。

また、不思議な事に、この場所で例年多産するアカシジミは、この日は1頭も確認できなかった。

1997年6月21日 金沢市キゴ山 4頭目撃 竹谷宏二

《たけたに こうじ 〒924 松任市三浦町44-2》

金沢市キゴ山でウラナミアカシジミを目撃、撮影

左 合 直

筆者は金沢市キゴ山の雑木林（医王山スポーツセンター前）で、以下の通りウラナミアカシジミを目撃、撮影しているのを報告する。

1996年6月23日 金沢市キゴ山 1頭目撃 左合直
8時頃下草に舞い降りたのを確認した。

1997年6月21日 金沢市キゴ山 3頭目撃 左合直
8時から10時にかけて撮影のため継ぎ竿でピーティングしていたところ、下草に降りた3頭を確認、そのうちの1頭を撮影した。3頭の見撃場所はいずれも40～50m離れているが、同一個体の可能性もある。

1994年から同地で何度もゼフィルスの撮影を行っているが、1996年以降アカシジミは確認したことがなく、ウラナミアカシジミの確認もこの2例だけである。ウラナミアカシジミについては、既に竹谷宏二氏によって報告されている（竹谷、1993）が、記録が少ない様なので報告した。

《 参考文献 》

竹谷宏二（1993）ウラナミアカシジミ金沢市キゴ山に産す. 翔(103): 2.

《さごう ただし 〒918 福井市木田1丁目2100》

医王山中腹でウラナミアカシジミを確認

生 田 省 悟

今年は、金沢市周辺でウラナミアカシジミの目撃・採集例が相次いでいるという。筆者も、金沢市と富山県福光町が境を接する医王山中腹において本種を目撃・観察しているので報告する。2例とも雌雄を確認したのみで、採集はしていない。

1997年6月30日 金沢市医王山（標高約540m） 1♂（目撃） 生田省悟

1997年7月 7日 金沢市医王山（標高約540m） 1♀（目撃） 生田省悟

医王権現から道路沿いに少し下った県境の地点（標高約540m）は、各種ゼフが集まるポイントの一つ。周辺ではコナラが目につき、クリも多い。1994年以来、シーズン中はこのポイントへ何度か足を運ぶことにしているが、本種を見たのは今年が初めてである。両日とも、念のため付近を叩いてはみたものの、追加例は得られなかった。

《いくた しょうご 〒921 金沢市平和町3-22-10》

金沢市国見山でウラナミアカシジミ多数を確認

松井正人

ウラナミアカシジミは、主に金沢市北部から津幡町一帯、小松市の低山帯から辰口町にかけてのクヌギ・アベマキ林で記録されている。ところが今年は、クヌギやアベマキのない金沢市のキゴ山や倉ヶ岳で多数確認されている。

ウラナミアカシジミが見られるクヌギ・アベマキ林の標高は、200mよりも低い所がほとんどだが、今年多数確認されたキゴ山の産地は約400m、倉ヶ岳は約500mだった。

金沢市の国見山では、これまでにウラナミアカシジミが2度採集されている。1度目は生田省悟氏により1994年に1♀が採集され（生田、1994）、2度目は江口元章氏により1995年に1頭が採集された（未発表）。付近にクヌギやアベマキは無く標高は500mと、キゴ山や倉ヶ岳の産地と良く似ている。

そこで7月6日に調査を実施したところ、国見山で多数のウラナミアカシジミを確認する事ができたので、同時に確認した蝶とともに以下に報告する。

1997年7月6日 金沢市国見山（標高500m） 松井正人目撃・採集			
ウラナミアカシジミ	1♂1♀採集5頭目撃	アカタテハ	2頭目撃
アカシジミ	1頭目撃	オオムラサキ	3頭目撃
ウラミスジシジミ	2頭採集	サカハチチョウ	1頭目撃
ミズイロオナガシジミ	10頭目撃	ルリタテハ	2頭目撃
ウスイロオナガシジミ	2頭目撃	イチモンジチョウ	1頭目撃
ルリシジミ	4頭目撃	ホソバセセリ	1頭目撃
トラフシジミ	2頭目撃	ミヤマカラスアゲハ	2♀目撃
ミドリヒョウモン	2♂目撃	スジボソヤマキチョウ	1♂目撃

国見山の産地はコナラ・ミズナラ林に位置し、金沢市犀川ダム上流（中西、1992）、金沢市日尾（今井・勝田、1957）、吉野谷村瀬波（生田、1994）などの産地もコナラ・ミズナラ林にある。これら産地ではコナラかミズナラか、それともコナラとミズナラどちらも食樹となっているのか、興味あるところである。

最後に、国見山のウラナミアカシジミについて詳細な情報をいただいた生田省悟、江口元章の両氏に厚くお礼申し上げる。

《 参考文献 》

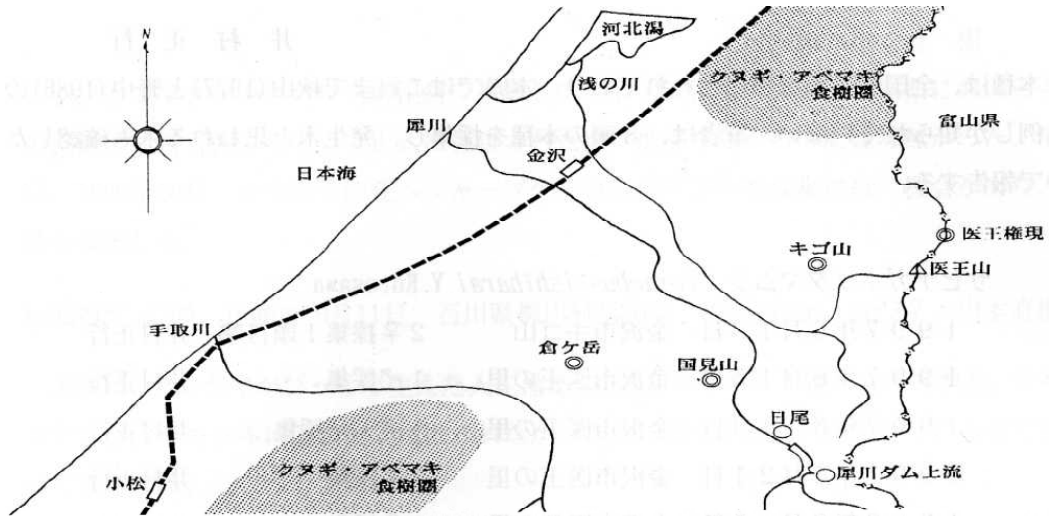
今井宏三・勝田 博（1957）金沢市近郊の蝶を追加す. とっくりばち（5）：9.

中西重雄（1992）ウラナミアカシジミの目撃記録. 翔（99）：7.

生田省悟（1994）ウラナミアカシジミの目撃・採集例若干. 翔（110）：1.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

金沢市周辺のウラナミアカシジミ分布図



金沢市南千谷でウスイロコノマチョウを採集

吉村久貴

近年、台風やその他の要因によって運ばれてきたと思われる迷蝶がよく記録されているが、筆者は、ウスイロコノマチョウを石川県金沢市南千谷で採集しているので報告する。ウスイロコノマチョウは、平地の社寺林などで確認記録されることが多いが、採集地は丘陵帯のクヌギ林の林縁である。

1997年7月30日 石川県金沢市南千谷 1頭 採集 吉村久貴

当日は、子供を連れてクワガタムシの採集を目的に現地を訪れた。南千谷周辺は、クヌギ林が多く残されており、以前はウラナミアカシジミの豊産地であった。現在、かなりの林が切り開かれ、土砂の剥き出しになったところも多い。

午後3時ごろ、ミヤマクワガタ、クロカナブン、タマムシなどを採集し、飛び回るキタテハを見ていると、見慣れないヒカゲチョウが低く木陰を飛ぶのを目撃した。キマダラヒカゲのような黄色は見え、なんだろうと思い、静止した個体を確認したところ、裏面のさざ波模様ははっきりと見えた。以前、九州の知人より送られてきた沖縄産のウスイロコノマチョウがすぐに思い浮かんだ。ネットを持っていなかったので、ビニール袋でなんとか採集したが、かなり汚損し後翅が大破した個体であった。前翅表面の眼状紋が比較的はっきりとしており、ウスイロコノマチョウと確認できた。

迷蝶の記録は台風シーズンの8月中旬以降に多いが、本年は7月から本州を縦断する台風が通過したため、比較的早い時期の記録となったものと思われる。その後、現地を訪れたが、他の個体は確認されておらず、現地での発生の可能性は低いと思われる。

《よしむら ひさき 〒920 金沢市旭町3丁目2 1-16》

サビナガボソタマムシの追加記録と一知見

井村 正行

本種は、全国的に稀な種と言われており、本県ではこれまで秋山(1977)と野中(1986)の2例しか知られていない。筆者は、8頭の本種を採集し、発生木と思われる木も確認したので報告する。

サビナガボソタマムシ *Coraebus ishiharai* Y. Kurosawa

1997年6月15日	金沢市キゴ山	2♀採集1頭目撃	井村正行
1997年6月15日	金沢市医王の里	1♂採集	井村正行
1997年6月19日	金沢市医王の里	1♂1♀採集	井村正行
1997年6月21日	金沢市医王の里	2♀採集	井村正行
1997年7月5日	金沢市医王の里	1♀採集	井村正行

本種のホストはヤマボウシで、6月頃は白い花が目立ってヤマボウシは捜しやすくなる。6月1日に医王山へ出かけた折、医王の里売店横にヤマボウシが5～6本あり、ことごとくタマムシと思われる食害が見られ、脱出口も確認できた。しかも、今年のものと思われる新鮮な脱出口も見られた。また、キゴ山にある自然学習館の横にもヤマボウシがあり、同様の食痕と脱出口を確認した。その後、数度に渡りこの2か所を訪れ、8頭の本種を採集する事ができた。

キゴ山の2♀は、ヤマボウシの樹皮の欠損部と衰弱部にそれぞれ産卵していたもので、医王の里の個体は、全てヤマボウシの生葉の表面に静止していたが、生葉への後食は確認できなかった。成虫は晴天時の午前11時～午後3時頃に見られ、葉上に止まっているいるものは、何度か見回っていると突然葉上に止まっているので、飛来してきたものと思われる。野中 勝氏は8月中旬に本種を採集している(野中, 1986)ことより、成虫の発生は6月～8月と比較的長いと思われる。本種の食害と思われる部分は、生木の樹皮の欠損部周辺や衰弱部分に見られ、完全に枯れた部分には古い食痕や古い脱出口しか見られなかった。

キゴ山の自然学習館前には外来種のハナミズキが3本あり、これらからも本種のものと思われる食害が見られたが、医王山山系にある自然状態のヤマボウシを50本近くを調査したが、本種の食痕や脱出口は確認できなかった。

《参考文献》

秋山黄洋 (1977) 石川県におけるサビナガボソタマムシの記録. 甲虫ニュース(39):8.

野中 勝 (1986) 金沢市国見山でサビナガボソタマムシを採集. 翔(57):7.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2丁目116-70》

ホソクロマメゲンゴロウの能登半島からの記録

山本直樹

ホソクロマメゲンゴロウを柳田村で採集しているので、報告する。石川県における本種の記録は井村(1993)によって正式に報告されたが、能登半島からの記録は無かった。筆者は、1996年10月、たまたま能登へシャープゲンゴロウモドキを採集に行く機会があり、本種を採集した。

ホソクロマメゲンゴロウ 1996年10月11日 石川県柳田村亀田原 標高270m 2♂3♀ 山本直樹

本種は、太いガマがびっしり生えた人工溜池の、水口の小さな水溜りで得られた。シャープゲンゴロウモドキはこの池では得られなかったが、近くの溜池で採集しているので合わせて報告する。

シャープゲンゴロウモドキ 1996年10月11日 石川県柳田村亀田原 標高280m 2♂2♀ 山本直樹

発表にあたり、同行いただいた浜岡洋一氏に厚くお礼申し上げる。

《 参考文献 》

井村正行(1993)「石川県のゲンゴロウ科調査報告」の訂正と追加. 翔(104):3-4.

《やまもと なおき 〒062 札幌市豊平区豊平5条10丁目1-8 フラット豊平303》

輪島市宝立山でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集

松井正人

輪島市と珠洲市にまたがる宝立山の標高450m付近で、輪島市側へ向けライトトラップを行ったところ、ヨコヤマヒゲナガカミキリが飛来したので報告する。

1997年8月30日 輪島市宝立山(標高450m) 1♂ 松井正人

ブナの生木を宿主とする本種は、主に加賀地区のブナ帯で得られ、能登地区からは鹿島町石動山の1♂だけが知られていた。能登地区には、小規模で孤立したブナ林が5カ所知られているが、中でも石動山と宝立山は人手の加わり方が少なく、宝立山には最も古いブナ林が残されていると言われている(清水・他, 1975)。

《 参考文献 》

清水正雄・浜野一郎・村本登代二(1975)能登半島の残存ブナ林について. 石川の自然 I (植生):26-47.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

1996年ゴマシジミ採集記 4. 東濃編

勝海雅夫

お盆休みを利用した中部地方と山梨のゴマシジミ採集、返す刀で中国地方のゴマシジミとくれば、残りは発生の遅い美濃のゴマシジミで仕上げとしようと、8月30日未明に岐阜へ向かった。

岐阜県恵那郡岩村町一色・山上・緑ヶ丘・西富などを巡って4♂1♀のゲットと、けっして数は期待できない。ここのタイプは明るいラージブルーで、顔としては「ええもんです」。但し♀に限り、黒系のタイプも10頭中1頭の割合で採れ、黒の方が珍しい様だ。岩村町を過ぎて国道363号線で山岡町に入る。上手向・羽佐間・大洞・西洞と巡って3♂2♀をゲットし、上々の滑り出し。この勢いで明智町に入り、大泉・小畑・杉野・上柏尾・大田などを巡って8♂6♀を採集した。

ゴマシジミの採集のコツは田圃の山側の斜面。遠目に見る限り斜面は薄い緑色をしていると良く、その正体がカヤならオーケーでススキならアウト。食草のワレモコウが有れば要チェックとなる。

8月11日から白山、中部、中国、東濃と続いた1996年のゴマシジミ採集記、簡単では有りますがこれで終わります。

《かつみ まさお 〒525 草津市西大路町4-3 2 かつみエスロイヤル7-1005》

キハダの庭木はムシヤの表札

諸道秀人

庭木の種類は、ある程度限定されている。そこで変な木があれば、ムシヤも生息している可能性が高いのである。私の家には下記の通り変な木が…

キハダ	3本	ヒロハノキハダ	1本	コクサギ	1本
サンショウ	1本	フユザンショウ	1本	ザボン	10本
バンペイユズ	1本	クロウメモドキ	9本	エゾエノキ	2本
カエデ	1本	ブナ	2本	イヌブナ	1本
ウスバサイシン	120株				

お気づきのように、私はチョウヤの中でもアゲハヤである。滋賀虫の会のメンバーには、食草100種オーバーの庭の所有者もいて、庭はジャングルのようにになっているが、虫飼いは便利な庭になっている。

《もろみち ひでと 〒520 大津市南郷4丁目23-12》

今は昔、奥黒部オオゴマシジミの園

松 井 正 人

時を遡ること約20年、立山、薬師岳、鷲羽岳、針ノ木岳に囲まれた黒部ダム湖周辺にはオオゴマシジミが多産した。なかでも日本における谷歩きの代表的な位置を占める上ノ廊下の入り口となる奥黒部ヒュッテのテント場は、オオゴマシジミの園のように多数の個体が吸蜜し、産卵していた。

1976年8月10日頃から数日黒部川に入った。ダムから平ノ小屋までは左岸に歩道があり、ここそこでオオゴマシジミが顔を出し、ダム湖に流れ込む支沢にもオオゴマシジミは飛んでいた。ハクサンカメバヒキオコシに産卵しているようで、雨が降っているときなどにはこれに止まっていた。

平ノ小屋からは歩道が右岸に移るが、橋は無く黒部湖を船で渡ることになる。これが有名な平ノ渡し場。関西電力が登山道の水没補償の代替として渡してくれるもので、料金は無料なうえに淡緑の黒部湖が眺望できる。遠く戦国末期、佐々成政が富山城から北アルプスを横断し上諏訪へ向かう途中、立山連峰はザラ峠で越え、後立山連峰は針ノ木峠で越えたものと考えられているが、この時に平ノ渡し場で黒部川を渡ったとされ、ここは歴史に彩られたロマンの地でもある。時間になれば、平ノ小屋のおやじが船頭となって渡してくれるのだが、時間にならないと渡してくれない。対岸に1時間程早く着き、おやじが見えたので手を振ったり大声を出したりしたが、わからなかったのか時間になるまで船は動かなかった。時間になり、おやじがやってきたのでこの話をする、「わかっていたが時間にしか動かさない」ときっぱり言われ、早かったから良かったものの、遅かったらと思うとぞっとした記憶がある。それからは、何度か渡し場まで走っている。この平ノ渡し場までは、トロリーバスを降り、ダムサイトを渡り、左岸の歩道を4時間程歩くことになる。

黒部湖右岸は左岸よりもオオゴマシジミは多く、針ノ木谷へも調査に入ったが記憶に無い。右岸を2時間程進むと東沢谷出合に着き、奥黒部ヒュッテが建っている。ここにテント場があり、オオゴマシジミがやたらと目に付いた。ハクサンカメバヒキオコシもたくさんあって、あちこちで花穂に産卵している姿が見られた。白黒ではあるが、産卵写真も何枚か撮影した。オオゴマシジミを見るのは初めて、それも広い範囲にゆったりと吸蜜したり産卵したりしている。まるでオオゴマシジミの園に居るようで、ここでのひとときは至福の時間だった。

それ以来、当地を訪れたことは無いが、千古不伐の原生林に守られて、今でもオオゴマシジミが飛んでいることだろう。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

はおおはしゃぎ。オオミズア
才が飛来すると歓声が上が
り、楽しい夜は更けていった。

燈火採集 イン 別当出合

別当出合でトラップを張つ
た富沢氏だったが、早々雨に
降られる。せつかくの準備を
無駄にするのはもつたない
と、休憩所の中でライトを続
けると、雨にも負けず甲虫が
たくさん飛んできた。言い忘
れていたが、採集許可は取つ
てます。

阿武隈山地のアオタマムシ

中西氏と米沢の横山氏、い
わき市から阿武隈のアオタマ
ムシを狙う。初日に何とか一
頭を得たものの、これがなん
と赤タマ。翌日、翌々日と粘
るが時ならぬ土砂降りに見舞
われ、追加記録は来年に持ち
越された。

虫の採りすぎで曜日ボケ

昆虫館準備室の富沢氏、仕
事で展示用の虫を採り回って
いる。平日の夜でも室員を

伴って燈火採集に出かけたり
している。それでもって休日
もやっぱり虫を採り歩いてい
る。こんな生活で唯一の曜日
感覚は子供だったが、夏休み
に入ってから、全く曜日感
覚が無くなったらしい。

燈火採集 イン 宝立山

大規模農道が宝立山を貫
き、金沢から二時間半でピー
クに立つことができるようにな
った。内浦、外浦両方が望
める絶好のポイントにライト
をセット。早速やってきたの
はカップルで、見晴らしの良
いこの場所は本来二人の場所
らしが、早い者勝ち。満天の
星と漁り火がまたたく中、た
くさんの虫が集まり、やがて
奥能登では初めてお目にかか
るブナ林の使者がやってくる
のだった。

昆虫目録におおわらわ

当初の予定からは既に2カ
月遅れの8月末、目録の原稿
はまだまだ未完成。仕事はサ
ボつても虫採りだけはかかし

たことが無い面々も、忍の一字
で原稿作成に精を出していた。

マックとウインがドッキング

古くからパソコンを使い込
んでいる徳本氏のデータは、
全てマックに収まっている。
最近、氏もウインを使うよう
になり、今では専らウインば
かり使っているの、データ
の使い勝手がたいそう悪く
なった。そこで、マックとウイ
ンを接続し、相互から相互の
データを取り出せるシステム
を組み上げた。

ひたすら続くマウント作業

高田君、四月から今までに
約四万頭の虫を採集。過激さ
は並大抵では無く、網はずぐ
さまポロポロになり、鋼鉄製
の枠も数回折れたらしい。更
には採った虫総てをマウント
する予定で、現在五千頭のマ
ウントを終えたとか。

ジワジワ広がる勢力範囲

鶴来町の八神邸周辺で今年
初めてアオマツムシが鳴いた

が、金沢付近ではずいぶん前
から鳴いている。調査を続け
ている徳本氏によれば、北は
宇ノ氣の海岸林、金沢は平野
部から里山一帯、辰口は一部
を除いてほぼ全域がアオマツ
ムシの勢力下にあるらしい。

例会の記録

八月七日(木) 八時から城
南管工二階にて開催。

今回は蝸牛の話。むし偏が
付いていても、これはカタツ
ムリ。徳本氏は現在カタツム
リの調査中で、氏からカタツ
ムリの習性や分類の方法につ
いて話を聞いた。カタツムリ
の好物は紙だとか、カラでは
区別できなくて、恋矢で区別
する等々。

その他では、森本のウスイ
ロコノマ、角間のウラナミア
カ、医王権現のウラナミアカ、
日尾のツブシジミガイ、毛む
じやらのマイマイ、釈迦岳ラ
イトは九月六日、等々。

参加は、井村、松井、中西、
徳本、矢田、生田、富沢の七人。

表紙デザイン：小幡英典

会員の動き・しゃばの動き

燈火採集 イン 輪島

去年、輪島で県内唯一のシマゲンゴロウが採れた。シマゲンは燈火に飛来するとの情報から、追加記録を出すべく、日中は池をすくい、夜間はライトで狙ったが、採れたのはコシマばかり。

日和田高原へ婿探し

飼育していたオオトラの材から超特大級の雌が羽脱した。井村氏、待ち望んでいた雄は羽脱せず。人工採卵からの飼育経験を持つ氏にとつて、この大物雌は捨てがたく、日和田へ婿探しに行くらしい。

ボロボロのウスイロコノマ

台風が過ぎ去った数日後、森本でボロボロのウスイロコノマが採れた。これももし雌だったなら、産卵しているか

もしれない。となれば幼虫採集、と思いを巡らしたが、実際のところは調査にも出ず、休日はビールを飲んで過ごす日々が続くのだった。

蛹をもてあそぶ猫

大きなクスノキがあり、隣接する建物の壁面にアオスジアゲハが次々と蛹化していたが、気がつくと蛹が落ちていた。小幡氏の観察によると、犯人は野良猫で、なめた様子、遊んだ様子はあるが、食べた様子は無かったらしい。

あふれかえる膨大なデータ

江口氏に付いて各地で調査をしている西原君、膨大なデータにハードディスクがついにパンク。普通ならまず標本箱が次々とパンクし、データがパンクするのはズーと先

の話。さすがは江口氏の弟子である。

燈火採集 イン 釈迦林道

昼はどんより薄曇りだったのに、夜はすっかり晴れ上がり標高千五百メートルは寒かった。蛾の仲間は多数飛来したものの、名前が分からずただのにぎやかし。お目当ての甲虫は少なかつた。

松枝岐のオオクワガタ

松枝岐のオオクワガタは自販機の光にも飛んでくるとの情報を得た西原君、ライトで狙うべく松枝岐へ向かった。当日、数張りのライトの中、西原ライトには八種のクワガタが飛来し、オオクワガタ一雄も交じっていた。

燈火採集 イン キゴ山

台風接近にもめげず、強引に張ったトラップは風でふっ飛ばされ、しかたなく林内にトラップを設置。お決まりのコガネムシやセミ、トンボしか飛来しなかつたが、子供達

翔

NO. 128

1997年10月1日発行

百万石蝶談会

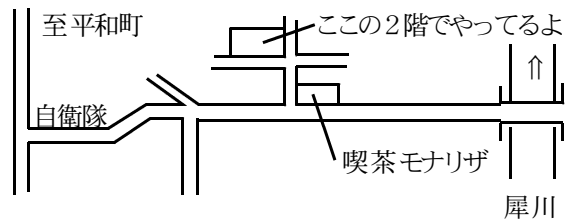
金沢市大場町東871-15 松井方

☎920-01 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL 参加もOKです (076-244-3318)



目 次（128号）

富沢 章：久しぶりのゼフィルス採集	1
竹谷宏二：今年はウラナミアカシジミ多産か？	1
左合 直：金沢市キゴ山でウラナミアカシジミを目撃、撮影	2
生田省悟：医王山中腹でウラナミアカシジミを確認	2
松井正人：金沢市国見山でウラナミアカシジミ多数を確認	3
編 集 部：金沢市周辺のウラナミアカシジミ分布図	4
吉村久貴：金沢市南千谷でウスイロコノマチョウを採集	4
井村正行：サビナガボソタマムシの追加記録と一知見	5
山本直樹：ホソクロマメゲンゴロウの能登半島からの記録	6
松井正人：輪島市宝立山でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集	6
勝海雅夫：1996年ゴマシジミ採集記 4. 東濃編	7
諸道秀人：キハダの庭木はムシヤの表札	7
松井正人：今は昔、奥黒部オオゴマシジミの園	8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	10